

支 出 書

会 派 名	五 黨 会	整理No.	2 - 1
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費		
金 額	10,000 円		
支出年月日	平成 30 年 7 月 4 日		
支出内容	東京都早稲田大学に於ける 「全国地方議会サミット 2018」参加費		
支 出 先	別添領収書の通り		

領 収 書	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
(該当○印)	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

別紙

領収書添付用紙

支出書整理№

2-1

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

藤原 平 様

¥ 10,000

但：「全国地方議会サミット2018」参加費 として

2018年 7月 11日

一般社団法人マニフェスト研究会
ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟事務局
〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-4-1
日本橋一丁目三井ビルディング
電話：03-6214-1315



支 出 書

会 派 名	五 黨 会	整理No.	2 - 2
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費		
金 額	68,240 円		
支出年月日	平成 30 年 7 月 5 日		
支出内容	平成 30 年 7 月 11 日～12 日 東京都へ出張旅費		
支 出 先	別添領収書通り		

領 収 書 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 五 黨 会
(代表者) 藤 原 平 様

2018年7月5日

¥68,240

但、7月11日～12日
東京都への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました



	金 額	摘 要
交 通 費	47,240円	
日 当	6,200円	
宿 泊 料	14,800円	
()	円	

(会派名) 五 黨 会

(名 前) 藤 原 平



調査報告書

会 派 名	五 黨 会	報 告 日	平 成 30 年 7 月 20 日
代 表 者	藤 原 平 	報 告 者	藤 原 平 
参 加 者	藤 原 平		
実 施 日	平成 30 年 7 月 11 日～7 月 12 日		
研究研修・調査等の場所	全国地方議会サミット 2018 於 東京都 早稲田大学大隈記念講堂		
目 的	テーマ 「議会の力で日本創生」		

第 1 日 平成 30 年 7 月 11 日 13:00～17:30

<開会式> 13:00

1、開会挨拶 全国市議会議長会会長 山田一仁氏

<基調講演> 「地方議会から日本を変える」

講師 早稲田大学名誉教授 元三重県知事 北川正恭氏

北川氏の論点は、地方分権推進法が成立後、平成の大合併も一段落し次第に地方自治専権的に所属する案件については、その自治体に対応して行くことがなされてきて地方分権の本来の目的の達成が進行しつつある。がしかし、その速度は自治体によってまだら模様であり首長の個性、活躍によるものが目立つ状況に見える。これでは駄目で更に深めるためには、住民により強く接する議員が市民の要望を吸い上げて議会として施策に展開できるようにしなければ国全体としての発展は望めない。

<講演、討議> 「真の地方創生とは何か」

講師 早稲田大学教授 元総務大臣 片山善博氏

自分の知事経験から災害が発生して災害対策本部を組織して、活動を始めようとする、議会の議員が個別に乗り込んできて勝手な論をまき散らして活動を邪魔するのが一番困ったと述べられ、こんな時こそ議会も独自の対策本部を設け執行部の対策本部と効率よく災害対策に当たることが肝心である。ことほどさように執行部と議会とで情報を共有することが肝心である。

講師 熊本市長 大西一史氏

熊本大地震を振り返ると 4 月末の本震後、すぐに対策本部を設置、同時に国への要望被災の状況確認、査定を行うと共に 6 月定例会を 1 日だけにして貰うと共に緊

急を要する案件は先決処分させていただき合わせて一般会計補正予算を組み対応をしたが、この間の時間の長さには忸怩たる日々だった。これを短縮するには議会と共に地域のニーズを集約して対処することが重要であると考える。

<課題整理> 「地方創生時代に求められる議会力」

講師 山梨学院大学教授 江藤俊昭氏

論点1、国からの「地方創生」と異なる地方（地方議会）からの地方創生=自治
論点2、地方政治の負の連鎖（投票率低下、無投票当選者の増加、不信の増加議会否定論の蔓延等）を脱却し正の連鎖を創り出す。

再確認！ 「住民自治の根幹」としての議会

- (1) 従来とは異なる議会（住民と歩む、議員間討議重視、首長等と政策競争）又、議会基本条例の制定の有無
- (2) 思いつきでない改革即ち首長との政策論争、議会意思形成のための討議、行政にも議会にも住民参加などの様な住民自治の根幹としての多様な討議空間のできる議会となっているか？
- (3) 議会基本条例の制定の有無
- (4) 地方政治の台頭ではあるが首長主導の民主主義とは異なる真の二次元代表制になっているかどうか？
- (5) 皆さんの議会はどこにいて、どこを目指す？議会からの政策サイクルの理論と実践が必要である。形式と共に実質的内容（一問一答方式、対面式議場、委員会の公開）と共に住民福祉に繋がるものになって初めて住民の信頼が得られる。又、政策が実現したらPDCAサイクルで検証することが必要。

<まとめ>さらなる一步：「地方が国を変える」を超え、「地方議会が地方を変えを変える。」そのためにも「地方議会は人格を持った議会の作動の前提は議員の情熱、判断力、矜持ある結果責任を自覚する事と議会間、事務局間、議員間、住民間等との連携が必要になってくる。

<パネルディスカッション> 議会力強化のための、議会事務局の変革

東京都羽村市議会事務局長 小林宏子氏

滋賀県大津市議会事務局次長 清水克志氏

月刊「ガバナンス」編集長 千葉茂明氏

両議会事務局共に議会力アップのためには、事務局として政策力の強化、議会と執行部との連携、議会と住民との連携の模索を真剣に考え実行している。

第2日 平成30年7月12日9:30~16:00

<先進地事例報告1.> 「地方創生をリードする議会へ」

目黒章三郎 福島県合図若松市議会議長/住民との対話から課題解決へ

子籠敏人 東京都あきる野市議会議長/広報改革から展開する議会改革

ビアンキアンソニー 愛知県犬山市議会議長/自由討議で委員会提言へ

川上文博氏 岐阜県可児市議会議長/委員会代理質問と政策サイクル

この討論の中で注目したのは可児市議会である。第1番として「一般質問からの委員会所管事務調査へ追加し、その委員会で類似の事業を行っている名古屋市や秋田県大館市の事業を行政視察を重ねることで委員会、又議会全体の意見統一を図っていることである。他にもママさん議会からの建設中の駅前子育て拠点施設について提言要望の意見書を議会全会一致で採決し執行部（子

育て支援課)に提言しその要望を実現している事である。

又、犬山市議会では「議員間討議の促進の取り組み」がある。通常一般質問の時は執行部の答弁に納得できないことも多い。そこでこうした場合議員間討議で意見を集約提案することでより客観的な意見となり市民への理解度も深まる事となる

又、犬山市議会では「市民フリースピーチ制度」を設けている。これは市民が市政について議場で全議員を前に5分間自由に発言できる制度で、いかにも外国人議長ならではと感心させられる。同議長曰く「豊かな経験を持つ市民が市政について議会で直接意見を言うことは、理想の犬山のづくりの一步になる。意見は聞き放しにせず、議員間討議につなげて適切なアクションを取る」としている。

<先進地事例報告2> 「政策を実現する議会へ」

尾崎大介氏 東京都議会議員／条例マニフェストと議会改革

松本研 横浜市議会議員／議員提案条例による政策実現

尾崎氏の話には何ら感銘を受けるものはなかったが横浜の松本議員の話は地方議会の変化・改革の芽を出さなければならない。地方議員のイメージは地方の名士が務める名誉職、当選確率も1倍ちょっとで就職より簡単、視察先で不倫、政務活動費で温泉地巡り議会開催は年間数十日、これでは市民に地方議会は必要なのかの疑問が起きても仕方ない。頑張る議員は認められるべきである コンプライアンス意識の高まり、限られた財源での緊縮財政、世代交代の進展、透明性の確保、開かれた議会へ努力しなければ認められないということである。

<講演> 「海外の議会制度から議会の多様性を考える」

講師 早稲田大学教授 中林美恵子氏

マスコミで大変著名な方である。アメリカでの国会事務局での永年の勤務から議会における政策立案過程での手法には感心させられるものがあつた。中林氏の言われる多様性とは、外国(アメリカ)では全ての政策は所属する政党単位で始まり、討議し結果に至るが、日本では特に地方議会では議員個人の属人性に立脚して決まると多様性が大きな特長で大変興味深い。

<パネルディスカッション> 「多様性ある議会に向けた実践と課題」

本間まさよ氏 東京都武蔵野市議会議員

岩永ひさか 東京都多摩市議会議員

白川静子 神奈川県茅ヶ崎市議会議員

このパネルは衝撃的展開であつた。3人とも女性であり、しかも本間氏が共産党岩永氏が緑の党、白川氏が公明党の所属でありながら議長に選ばれていることである。しかも、ディスカッションにおける討論も論理的であり、現在どの地方議会が抱える活性化、政策力の強化などに積極的に取り組まれていることである。この3市の議会の包容力の大きさに感心すると共に今後の議会の多様性の展開に注目するところである。

支 出 書

会 派 名	五 黨 会	整理No. 2-3
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	9 7 , 9 8 0 円	
支出年月日	平成 30 年 10 月 10 日	
支出内容	第 8 0 回 全 国 都 市 問 題 会 議 新 潟 県 長 岡 市 ア オ ー レ 長 岡 へ の 出 張 旅 費	
支 出 先	別添領収書通り	

領 収 書 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 五 黨 会

2018年10月10日

(代表者) 藤原 平 様

¥97,980

但、10月10日~12日
長岡市へ出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	62,180円	
日 当	6,200円	
宿 泊 料	29,600円	
()	円	

(会派名) 五 黨 会

(名 前) 藤原 平



支 出 書

会 派 名	五 黨 会	整理No.	2 - 4
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費		
金 額	10,000 円		
支出年月日	平成 30 年 10 月 10 日		
支出内容	第 80 回全国都市問題会議 新潟県長岡市 アオーレ長岡 参加費		
支 出 先	別添領収書の通り		

領 収 書	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
(該当○印)	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

2-4

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

振込金受取書 (兼振込手数料受取書)

預金払戻請求書
預金口座振替による振込受付書 (兼振込手数料受取書)

ご依頼日	平成	年	月	日
	20	9	26	

当行をご利用いただきまして
ありがとうございました。
お振込は早くて、手数料も安い
ATMからの振込をご利用
ください。

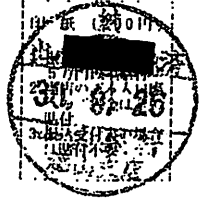
- 2時以降は、窓口が大変混雑しますので、お振込はできるだけ午後2時までにご依頼ください。
- 振込先銀行等は、受取人名のほか預金種目・口座番号を通知します。また受取人名等はカタ文字により送信します。
- 振込依頼書に記載相違等の不備があった場合には、照会等のために振込が遅延することがあります。
- やむを得ない事由による通信機器、回線の障害等により振込が遅延することがありますのでご了承ください。
- 振込のため受入れた小切手が不渡りになったときは、その金額の振込を取消し、その小切手に権利保全の手続きをしない
ご当店において返却します。

お振込先	銀行名	みずほ	銀行	金庫	組合	農協	その他	支店名	十二号	支店		
	預金種目	普通 1	当座 2	貯蓄 4	その他 9	口座番号	[Redacted]					
お受取	おなまえのフリガナ	カ)ニ"エイテ"ーヒ"ー					金額	[Redacted]				
	おなまえ	株式会社 JTB					金額	410000				
お取人	おところ	新潟県長岡市東坂元上町2-1-1					おなまえ	福山市議会 五重会				
	おところ	〒(958)25 局3315番					おところ	奈良県福山市東杉町3-5				
振込方法	現金振	振替振	受取人区分	現金振替	振込手数料	電話番号	0844281123					



※このお振込は、別途定める当行の「振込規定」によりお取扱いさせていただきます。
※お振込の組戻しには、別途所定の手続手数料が必要です。

現金・当座	振替	手数料	合計
10000	10000	10000	30000

株式会社
中国銀行
福山支店



研究研修・調査報告書

会 派 名	五 黨 会	報 告 日	平成 30 年 10 月 18 日
代 表 者	藤原 平 印 	報 告 者	藤原 平 
参 加 者	藤原 平		
実 施 日	平成 30 年 10 月 11 日~12 日		
研究研修・調査等の場所	第 80 回全国都市問題会議 新潟県長岡市 アオーレ長岡		
目 的	<p>10 月 11 日 午前の部 基調講演 地方分権へのまなざし 主報告 長岡市の市民協働</p> <p>午後の部 一般報告 市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント 一般報告 場所の問題</p> <hr/> <p>10 月 12 日 午前の部 パネルディスカッション 市民協働による公共の拠点づくり</p> <p>午後の部 行政視察 生ごみバイオガス発電センター 応用</p> <p>午後の部 地域が豊かになる民泊の実例・基礎知識</p>		
研究研修・調査等の概要			
<p>講習会時間 10 月 11 日 9:50~10:50</p> <p>演題 基調講演 「地方分権へのまなざし」</p> <p>講師 東京大学史料編集所教授 本郷和人氏</p> <p>(1) まず、地方分権を歴史的に考察すると、遠く古代の中央集権国家時代にも天皇制の下での国家があり、又地方行政の単位としての「国」が置かれていて、その国を守る行政官として国司が任命」されていた。だがこの国司は任命任地に</p>			

赴かず、又、部下を派遣して京都から直接行政の指揮を綿密に執る訳でなくて丸投げして唯、取りやすい税を吸い上げる程度であって、当然、国の施策や意向が現地に浸透する訳はなくその地方での論理が優先的に働いてゆく状況であったこうした地方行政の形骸化は朝廷からの統一的なコントロールが届かないで、自分の土地は自分で守らなくてはならない時代に入り、次第に地域の有力者達は武装してゆく武家社会の誕生となる。

- (2) 武家社会誕生の鎌倉時代から室町、安土桃山、戦国時代を経て徳川家康が日本全国を完全に把握統一して中央集権国家を完成させた。こうして江戸時代に入ると、天下も完全に統一された徳川幕府の絶大な中央集権国家が生まれた。戦も無くなり経済が大いなる発展を始め貨幣経済が起り、幕府の力も依然として絶大ながら地方も徐々に勃興を始める。特に貨幣経済の下で商人の経済力が強くなり地方(藩)の力もその経済力で差が出てくるようになって来た。
- (3) その後、明治維新を経て今度は天皇を核とする強力な中央集権国家となるも西欧国家を模した近代国家を目指した為地方行政もそれなりに整備された国家体制となり急速な進展を見る事が出来た。
- (4) そして大正、昭和の間に二度の大戦を経て現在の民主主義社会へと発展してきた。がしかし、その過程で「慣れ」「慢心」から社会の学院成長が鈍化し始めて様々な矛盾も生まれてきて、こうした状況に対処しなければなりません。そのキーワードが「人口減少社会の到来とその対処」であると提案された。

講習会時間 10月11日 11:00~12:00

演題 主講演 「長岡市の市民協働」

講師 新潟県長岡市長 磯田達伸氏

- (1) 長岡市は新潟県のほぼ中央に位置し、人口は県内2番目の271686人を有しているが、歴史性から独特の個性を持つ地域である。牧野家初代藩主長岡忠成による回復から400年、北越戊辰戦争から150年目の節目を迎えようとしている。この戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡藩に支藩である三根山藩から見舞として贈られた百俵のコメを、大惨事的小林寅三郎は藩士らに分配せずに、教育の大切さを説いて国漢学校設立の資金に充てた。「何事も基本は人、人づくりこそすべての根幹である」いわゆる「米百俵の精神」が色濃く地域の精神形成に宿っている。

(2) 市民協働の推進

「協働によるまちづくり」について、その理念、市民と行政が協働できる仕組みや環境整備などを具体的に推進するため、平成24年6月に新協働条例を制定した。制定にあたり、「検討委員会」の議論のほか、全域で30回のワークショップ

ブを開催し、1000人を超える意見を反映した。他自治体条例では例のない「地域コミュニティ」活動の推進」を掲載、「米百俵の精神」を受け継ぎ将来の子供たちの人材育成を掲載し、同年4月に開設された市民協働センターは、市とNPO法人が協働で運営し、市民の自発的な活動や各種団体の立ち上げ・運営などに関する相談を受けるほか、関連する団体との連携をコーディネートしている。

(3) 市民協働の場 「アオーレ長岡」

屋根付き広場「ナカドマ」を中心に、アリーナ、市民交流スペース、市役所議会などの機能が渾然一体に溶け合う複合施設・シティホールプラザ「アオーレ長岡」が平成24年4月にオープンした。市民との協働のまちづくりの実証実験として、29年度の利用率は85%、イベント数654件の内民間主体のイベントは557件(85%)、延べ来場者は130万を超えている。

講習会時間 10月11日 13:10~14:20

演題 一般報告 「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」

講師 三重県津市長 前葉泰幸氏

(1) 住民自治の伝統

古くは「お伊勢さん」と地元の人は崇敬の念と親しみを込めて伊勢神宮が内の中心にありそのお伊勢参りに来る旅人が行き交う宿場町として近世まで栄えたまちである。そして、近代は、紡績から食料、造船、電機、輸送機器のものづくりまちとして発展してきたこのまちの住む市民は、自分たちのことは自ら決める自治の伝統を有し、現代も市政に関する関心の高いまちです。

(2) 公共施設マネジメントにおける市民との意思疎通

このまちの住民自治の伝統を踏まえ、市民との意思疎通に留意しつつ進めています。公共施設の整備や運営に関しては、目指す方向が次々変化してきたことから、その時々で重要となる市民とのコミュニケーションの取り方も変わってきました。

ミッション1) 合併を決断した住民が目指した公共施設を作ること。

ミッション2) 故郷施設の「不都合な真実」をあぶり出し、向き合え。

ミッション3) 市民との対話から聞き取った思いや願いを反映した公共施設を作れ。

(3) これからの故郷施設マネジメント」

大規模故郷施設が直面した課題を解決し又過去からの経緯が生み出す第3クターの経営問題をこのマネジメント手法を用いて乗り越え、地域住民の関心の高いテーマである文教施設の統合を知恵を絞ってやり遂げ、且つ又、新しい時代のコミュニティ施設やエリア再編を市民の手で青写真を描くようにすることが肝心。

講習会時間 10月11日 14:40~17:00

演題 一般報告 「場所の時代」

講師 建築家・東京大学教授 隈 研吾 氏
筑波大学教授 森 民夫 氏
アートディレクター 森本千絵 氏

(1) 熊研吾氏

今や「場所の時代」と言える時代に入ったと言える。氏は1990年代の不況の中経済の波を超越できる建築にこだわった。それは、徹底的に場所にこだわって設計する建築である。その場所でしか手に入らない材料を使い、場所を熟知した職人の手を使い、その地の気候、環境と調和し、人々が本当に必要としている建築を作るということである。この事は地域の活性化につながる。金融危機以降、世界的にもこのような「リージョナリズム」の動きが注目されている。境界を超えてグローバルに活動する国際企業と、小回りの利く、地域に根ざした企業が生き残る時代へと世界は転換し、「小さな場所の力」が見直されている。「物」と「国家」を枠組みとした工業化の時代は去り、現代は今、「場所」を主役と脱工業化社会になってきている。隈氏はこの中で、評判になった新国立競技場の設計に当たって、「大きい建築を如何にして場所につなげるか」に腐心。即ち、大きさをあげつらうことなく、「大きさ問題」に取り組むことの苦勞を正直に伝えて、技を多くの仲間と共有しあうことが必要ではないかと強調している。そして、つなぐ方法は、形態論であると同時にコミュニティ論でもある。場所と建築がつながり、響き合うことができれば、自然と人が集まり、コミュニティが育ってくる。このアオーレ長岡も同じ意図で設計したが正にその成果を達成されていると自己満足している。

他の二人は森氏が発注者としてほぼ同じような考え方、又森本氏は市民の利用の観点から北越地方固有の「中土間」を設計にいれ、これが市民に親しみやすい使いやすさを感じさせていると結んでいる。

講習会時間 10月12日 9:30~11:40

パネルディスカッション 「市民協働による公共の拠点づくり」

コーディネーター 明治大学経済学部教授 牛山久仁彦氏

パネリスト 東京理科大学工学部教授 伊藤香織氏

NPO 法人子育て広場 奥山千鶴子氏

長岡国際交流センター 羽賀友信氏

埼玉県和光市長 松本武洋氏

高知県須崎市長 楠瀬耕作氏

(1) 伊藤香織氏

シビック・プライド醸成のコミュニケーションから考える「拠点」「都市に対する市民の誇り」をシビック・プライドと言うが、単なるまち自慢でなくて地元への親近感でもない。郷土愛に似ているが、シビック・プライドは当事者意識にもとづく自負心と言えるでしょう。そしてこの言葉は多くの自治体のまちづくりの現場で使われ始めた。具体例としては政治集会、地域集会への参加、地域の人とのつながりやボランティア、クリエイティブ・クラスの個人が公共精神を持って都市の進行を助けることへの期待、地域イベントによる積極てき社会参加、地域のプロスポーツチームの応援など例として挙げられる。

(2) 奥山千鶴子氏

地域子育て支援拠点事業は妊娠から就学期のこどもとその家庭対象に展開されているが、地域の中に安心して過ごせる場所、親同士が知り合い、子どもを育みあえる場所の必要性を感じる。なぜなら、子ども達にとっては、乳幼児に過ごした場所として、また沢山の愛情を得られた場所としての「ふるさと感」につながり、人生のスタートの豊かさがその後の人生にも多大なる影響を与える重要な事業になるからである。

(3) 羽賀友信氏

少子高齢化から人口減少問題が取りざたされだして、長岡市では平成13年に活動の拠点として長岡市民センターが設立された。このセンターのコンセプトは「生命体」であり、市民の成長とともに使い方も臨機応変に成長できるよう、厳しいしい条例は設置されませんでした。さらにその運用に当たっては、人が集まると何かが始まるという「場の効用」重視し、かつ市民が活動する姿が共有され、徐々に市民活動が活発になってきた。その後このセンターはアオーレ長岡になって規模も活動も大きく拡大してきて長岡市のすべての活動がこの場所を中心に展開されてきている。

(4) 松本武洋氏

松本氏は地域包括ケアを支える新たな拠点づくりにおいて、場所とNPOと新たな視点での連携が必要であると説かれた

(5) 楠瀬耕作氏

四国の山間地の何もない過疎地域で、ほかの地域と同様に少子高齢化、人口減少対策として、「須崎未来塾」という持続可能なまちづくりエンジンを作った事が大きな味噌である。即ちこの年の希望は、地域資源とそこに暮らす人材によるマッチアップにあると考えており、人材育成が重要な位置付けとなっている。その方法としてこの未来塾に種々の講座を設け、地域での実践を通じて「学び・楽しみ・つながる」体験を重ねながら成長して人材育成に大いに貢献している。又具体的にも種々の課題の解決に貢献している。

閉会式 11:50

次期開催市長挨拶 鹿児島県霧島市長 中重真一氏
閉会挨拶 日本都市センター理事長 大西秀人氏

<行政視察> 生ごみバイオガス発電センター

長岡市と合併前の7町村のすべての生ごみ（紙おむつ）を集中的に収集してこれから発生するメタンガスで発電、その電力を施設内で消費すると共に売電して得た利益を各地域のNPOの活動費に助成したりしている。紙おむつ専用のピットを初めて見たが、先進的な処理方法と感心した。